

花うさぎの「世界は腹黒い」

日本が普通の国になるように。
産経新聞を応援しています。

あなたも日本人を見習って大きくなりなさい！

(<http://hanausagi.iza.ne.jp/blog/entry/1637189/>)

中山恭子さん、ウズベキスタンの日本人観を語る！

日本人は規律正しく勤勉で物作りが
上手、お返しを忘れない律儀な人々

<http://twitter.com/#!/hanausagifan>

(2010/06/04) 1/2

ブログ「ねずきちのひとりごと」でお馴染みの日本の心を伝える会が1日、池袋の芸術劇場で「中山恭子さん、伊藤玲子先生を囲む会」を開催、女性を中心に約40人が参加し、有意義なひとときを過ごしました。講演したのは杉並区議会議員の吉田あいさん、打倒日教組に執念を燃やす伊藤玲子さん、そして参議院議員の中山恭子さんの三人。

講演が終わるとテーブルにお菓子とお茶が出て「茶和会」形式の懇談が行われ、途中で中山成彬議員が挨拶、参加者は講師と懇談したり、記念写真を撮影したりと和やかな雰囲気でした。最後に日心会と花時計の両団体から宮崎口蹄疫被害への義捐金が中山成彬議員に手渡され、三時間弱のイベントを終えました。

ところで中山恭子さんといえば、拉致問題担当として家族会・救う会から厚い信頼を得ていますが、それ以前にはウズベキスタン特命全権大使を一九九九年から約三年間勤めて、日本に親日国・ウズベキスタンを紹介してきたことでも知られています。



講演する中山恭子さん、右はウズベキスタンの日本人墓地を解説しているシーン

私は最近、「祖父達の戦争体験をお聞きする孫の会」にも出席させて頂いて、二回続けてソ連強制労働(シベリア抑留)の話を書いてエントリーで紹介していますが、中山さんの話の中にもやはりこの日本人捕虜がウズベキスタンで創った建物やダム、道路や日本人墓地の話が出てきました。

ねずきちさんも挨拶で紹介してましたが、中山さんの話は本当に人柄が出ているというか控えめで優しい語り口の中にも日本人の心を打つ何かがあって、感動させられますね。会場で彼女の著書「ウズベキスタンの桜」が販売されていたので、この本からあの有名な「日本人抑留者の残したもの」の部分を抜粋して以下で紹介致します。

実はこの文章のあとに、日本人墓地を守ったウズベキスタンの人々の話し、そしてウズベキスタンに植えられた桜と、感動的な話が続けて掲載されています。中山さんが事あるごとに紹介してきた話ですが、そのベースはこの「ウズベキスタンの桜」に収録されています。初版は2005年11月16日、現在三刷でKTC中央出版から1800円(税別)で好評発売中です。



約40人強の女性を中心にした素敵な茶和会でした。

日本人抑留者の残したもの

ウズベキスタンでは、日本人が働いていた様子が各地で伝えられています。極東から強制的に連れてこられた二万五千人の日本人は、ウズベキスタン全域で強制労働に従事しました。車を走らせていると「大使、この道路は日本人が造った道路だ」と教えてくれることがありました。薄いアスファルトの剥けたところからきちんと敷き詰めた石畳が覗いています。何キロメートルも続く石畳の道路です。

アングレンでは炭鉱の仕事をしていました。アングレン市の市史には、「第二次世界大戦後、この地にやってきた日本人戦争捕虜は、町の建築・整備に大きな貢献をした。彼らと一緒に働いた者達はその勤勉さと几帳面さをいまだに覚えているくらいである。日本人収容所の規律は厳格であったが、現地の住民達は、そのころ珍しかったペン先が金メッキの万年筆を日本人から買ったり、交換したりすることができた」と紹介されています。

車でアングレンに入ると雪をいただく山々に囲まれた美しい田園風景が続きます。鳥原さんがこの景色をすっかり覚えていたのも頷けます。この美しい田園の中に大きな火力発電所が建てられていて黒い煙をもくもくとたなびかせていました。



左からねずきち氏、吉田あい杉並区議会議員、伊藤玲子さん、中山成彬前衆議院議員

州や市の庁舎として使われている建物の中にも日本人が建設したものが多くあります。学校として使われているものもあります。日本人が建設したタシケント郊外チルチック市のアパートを早稲田大学の北村歳治教授と訪ねました時には、そこに住むライサ・エゴロヴナ・ザドンスカヤさんが話してくれました。



『花うさぎの「世界は腹黒い」』お勧め動画
☆マスコミが報じない正しい歴史、日本が好きなのは必見！☆
「凜として愛」「氷雪の門」「誇り～伝えよう日本のあゆみ～」
「めぐみ」「日本がアジアに残した功績」「真実はどこに…」

わからない事は
調べましょう！

検索

izaブログ最高ランキング
【全体】2位 【政治】1位
(2011年12月30日)

*花うさぎ氏は2011年12月27日永眠されました。日本を想う数多くのエントリーを遺して下さった事に心から感謝致します。

花うさぎの「世界は腹黒い」

日本が普通の国になるように。
産経新聞を応援しています。

あなたも日本人を見習って大きくなりなさい！

(<http://hanausagi.iza.ne.jp/blog/entry/1637189/>)

中山恭子さん、ウズベキスタンの日本人観を語る！

日本人は規律正しく勤勉で物作りが
上手、お返しを忘れない律儀な人々

<http://twitter.com/#!/hanausagifan>

(2010/06/04) 2/2

「十二歳の時このアパートに引越してきた。このアパートは日本人が建てたものなので強くて安全だ。あそこの運河も日本人が造ってくれたものだ。もっこを背負って、腰を曲げて十を運んでいたのを覚えているよ」

その方はこのアパートの建設は一九三九年だと主張しました。北村教授と、戦後のものではないとするとノモンハン事件と関係があるのかもしれないと話しました。

帰路、アパートから二百メートルほど離れたところにある運河にかかる橋の上に車を止めました。両岸には木が生い茂り流れる水に影を落としていました。たつぷりと水が流れ、運河に沿って農地が何処までも広がっていました。

日本人が掘った運河はウズベキスタン各地で見ることが出来ます。運河の途中には小さな水力発電所も建設されています。どの地方を訪れましても、日本人が働いていた様子が語り継がれており、日本人は勤勉だった、規律正しい人達だ、嘘をつかない人々だったと教えてくれます。



「過去現在未来塾」
発会式の中山恭子
さんの挨拶から

首都タシケントではナヴォイ劇場を日本人が建設したことはよく知られており、その当時の日本人を語る逸話も伝えられています。金融機関に勤めていた方の話です。

「子供の頃、日本人が入っていたラーグリ(収容所)の近くに住んでいた。日本人は毎朝、挨拶をし隊列を組んで仕事場に出かけていった。夕方また隊列を組んで戻ってきた。ある時お腹が空いていることだろうと思って、友達とラーグリの垣根の壊れたところからパンと果物を差し入れた。そうしたら二、三日後に、手作りの木のおもちゃが置いてあった。

親から、『日本人は規律正しい人々だ。勤勉で物を作ることがとても上手な人達だ。そしてお返しを忘れない律儀な人々だ。あなたも日本人を見習って大きくなりなさい』と言われて育てられた」

ウズベキスタンでは、かつての抑留者一人ひとりの振舞いがウズベキスタンの人々に深い感銘を残し、日本人というイメージが作られています。戦後この地で強制労働に従事した日本人がその日々の生活を通して残した貴重なものが、今の日本に対する信頼を形成する上でどれほど貢献していることか。苦しい抑留生活の中でも規律正しく、優しさを失わなかった日本人に心から敬意を表し、心から感謝したいと思います。(ウズベキスタンの桜 P209-P212)

有難うございました。花うさぎ通夜告別式(2012/01/02)
写真を更新しました。(2012/02/10)

<http://hanausagi2.iza.ne.jp/blog/entry/2556660/>

謹啓

父 安仲徹男(花うさぎ)の葬儀に際しまして、本当に多くの方々に参列頂き、ご鄭重なるご弔意を賜わりましてまことにありがとうございました。

父を深くご理解くださっていた皆様、心のかもったお別れの言葉を贈っていただきましたことで、亡き父も、きっと喜んでくれているに違いありません。

父が遠くへ行って初めて、その生き方を少しは様々な角度から眺めることができるような気が致しております。

以前父とこんな話をしたことがあります。

「尖閣問題が起こっても、震災が起こっても、民主党がこれだけデタラメやっても国民は、**大手メディア、新聞の情報でしか判断できない。この国はもうだめだろ...**」

父は私の名をよびこう言いました。

「**、悲観する必要なんて全くないんだよ。**
戦後の歴史で今ほど保守の活動が広がっている時代はない。それは**ネットの力を借りて、この国を憂いている人たちが思いを馳せ行動を開始し、真実の情報を発信し、多くの人が気づき初めているからだ。**

だからお前は、家族を大切に、この国を好きになって毎日をごせばそれでいい。

**マスコミに騙されず、
自立した人生を送って、
日本を好きになって、
勇気をもって活動している
みなさんを応援してあげて。」**

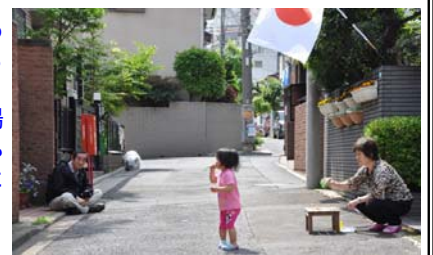
その話しぶりは、叱るでもなく、励ますでもなく、諭すでもなく、嬉しそうで穏やかな口調でした。

そのときはうまいこと言うなあくらいにししか受け止めていませんでしたが、今は父の穏やかな人柄と凜としたぶれない生き方、人としての器の大きさなど自分との違いをかんじずにはいられません。

これからも、皆様からお寄せいただきましたご厚情と、父の思い出を大切に参りたいと存じております。

格別なご高配につきまして、重ねて厚く御礼申し上げます。末筆ながら、みなさまの幾久しいご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

自宅にて/国旗を掲げるようになったのは7~8年前からです。
普通の住宅に日本国旗が掲揚されているだけですがとても凜々しい描写になるものだと**思い掲載いたします。**
日丸、本当綺麗ですよ。



『花うさぎの「世界は腹黒い」』お勧め動画
☆マスコミが報じない正しい歴史、日本が好きなのは必見！☆
「凜として愛」「氷雪の門」「誇り~伝えよう日本のあゆみ~」
「めぐみ」「日本がアジアに残した功績」「真実はどこに...」

わからない事は
調べましょう！

検索

izaブログ最高ランキング
【全体】2位 【政治】1位
(2011年12月30日)

*花うさぎ氏は2011年12月27日永眠されました。日本を想う数多くのエントリーを遺して下さった事に心から感謝致します。